

村井 宏先生のご逝去を悼む

吉崎真司（東京都市大学名誉教授）

日本綠化工学会に大きな功績があった村井 宏先生が本年 6 月 14 日に急逝され、ご葬儀が 6 月 18 日に盛岡市の願教寺にて執り行われました。享年 97 歳でした。亡くなる直前まで普通にお話をされていたということで、ご家族も大変驚いていらっしゃいました。

村井 宏先生は、72 歳の時に 1 冊、東日本大震災のあった 82 歳の時に 2 冊、92 歳と 94 歳の時にそれぞれ 1 冊の本を取り纏め、ご自身やご家族の歴史、専門分野への思いを著してきました。そして今年は次に出版する予定の「白寿の森に近づくー前向きの道を求めてー」の執筆に取りかかっていらっしゃいました。構成は、第 1 章：残されているいくつかの課題、第 2 章：身近な課題、第 3 章：エッセイ集、となっています。特に、第 1 章では、1. 森林火災の発生と拡大防止のために、2. 津波被害後の森林自然回復に注目を、3. 有力な風力開発域の北上高地の状況、となっており、今年の 2 月に発生した大船渡での森林火災の状況を案じて執筆を開始されましたが、それがご遺稿となりました。今年の 10 月に開催された日本海岸林学会岩手大会（陸前高田市）の現地検討会は大船渡の森林火災跡地で行われ、樹林の被害判定には先生の論文が採用されていました。「先生が私たちをここへ連れてきてくれたのだな。」と強く感じました。

先生は、盛岡農林専門学校林学科をご卒業後の 1949（昭和 24）年に林野庁に入庁され、北海道北見営林局を経て、1952（昭和 27）年に林野庁林業試験場に出向、1959（昭和 34）年からは当時の農林省林業試験場東北支場（盛岡市内）で研究に従事されました。1971（昭和 46）年には、農学博士（北海道大学第 869 号）を取得され、その後 1979（昭和 54）年に静岡大学農学部教授、1991（平成 3）年からは母校である岩手大学農学部教授、大学院連合農学研究科専任教官として教育・研究に従事され、多くの学生を指導・輩出されました。まさに日本の戦後復興期から高度経済成長期を経て現在に至るまでのすべての期間における「森と緑と水」に関する研究を牽引してきた研究者です。

学会活動も積極的で、日本海岸林学会、日本林学会、砂防学会など多くの学会で活動されました。特に日本綠化工学会においては 1989 年から 1995 年 4 月の 6 年間にわたって評議員・理事として学会運営、学会誌編集委員長を務めるとともに、研究部会設置を自ら提案し、乾燥地緑化研究部会長（初代）、積雪寒冷地研究部会長（初代）を歴任されるなど多くの貢献を行い、1996 年には学会より功績賞を授与されています。この間、1990 年には緑化技術用語事典（山海堂）の出版にご尽力されました。また、日本林学会（現在、日本森林学会）からは 1978 年に「林地の水および土壤保全機能に関する研究」で学会賞を、2005 年には東北森林科学会賞を授与されています。

社会活動においても、静岡県では自然環境保全審議会、岩手県では自然環境保全審議会、森林審議会委員などを歴任しました。特に岩手県内では、東北地域環境計画研究会、環境パートナーシップ、みどりを守り育てる岩

手県民会議、森林水産研究会、森と緑の研究会などを通して岩手の自然や森林環境の保全に大いに貢献されました。1995年には岩手日報文化賞、2003年には環境大臣表彰（地域の環境保全）を授与されています。

先生は多くの論文を発表しています。研究論文として85編、研究資料等として58件、関連調査研究報告書として94件、総説を22件、シンポジウム・講演等として32件のほか、海外研究・調査等として18件の案件に取り組まれました。

学術図書の出版にも精力的に取り組まれ、混牧林施業と林地保全（1972）、治山綠化工学（1984）、綠化技術用語事典（1990）、ブナ林の自然環境と保全（1991）、日本の海岸林（1992）、環境綠化工学（1992）、のり面綠化の最先端（1995）、新編治山・砂防綠化工学（1997）、ふるさとの荒れ地を緑に（2004）、甦れ！ふるさとの海岸林（2019）の編著者のほか多くの学術図書の分担執筆も担当されています。

筆者が先生とお会いしたのは1986年12月です。出会いは偶然でした。別用で母校の学科事務室にいた私に、「吉崎君、砂漠に興味はないかね？」という言葉をかけていただいたときです。その時村井先生は57歳、筆者は31歳でした。それから約40年もの長きにわたって公私ともにご指導いただきました。特に、UAEでの乾燥地における防風・防砂林の造成研究は静岡大学農学部とUAE大学農学部との共同研究（乾燥地農業の改善に関する研究）で、40℃を越える砂漠の中で土壤調査や植栽木の成長調査を一緒に行なったことは忘れられません。北上高地の風力発電施設の開発と立地の評価、東日本大震災後の海岸防災林の修復、「宮古市かわい木の博物館」に関する調査・研究をご一緒にできたことは筆者の宝となりました。

村井 宏先生のご冥福をお祈りいたします。



村井 宏教授（中央）・松田敬一郎教授と UAE 大学農学部教授 Dr.AlAfifi
－静岡大学・UAE プロジェクトチームスタッフとともに－（1988年9月 Al Oha Farm, Al Ain）